



終戦の2年後の1947年（昭和22年）、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから約80年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まってきています。

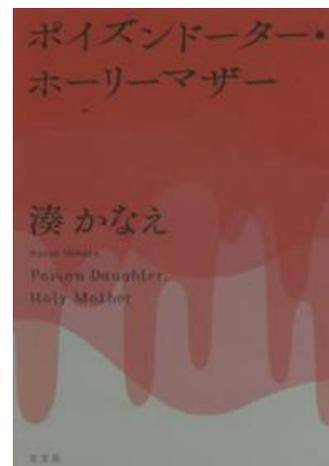
本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。

図書委員からのお薦めの本

「ポイズンドーター・ ホーリーマザー」

この本は、ドロドロした人間関係や殺人事件などの物語を集めた短編小説集です。視点が変わることで大きく異なる受け取り方ができたり、一見真相とは関係なさそうに思える内容が実は重要な伏線だったりするのが、この本の魅力だと思います。

この本で私の印象に残っているのは、「アイディアレスト」という物語の最後の一文です。気になる方はぜひ読んでみてください。



著者：湊 かなえ